

令和2（2020）年10月市長定例記者会見の概要と質疑応答

令和2（2020）年10月7日（水曜日）
午前11時5分～午後0時2分
柏崎市役所大会議室

1 発表事項

(1) 「かしわ★ざ★キッズ！スターチケット」で子育て応援！

（主管：子育て支援課）

0歳から3歳のお子さんがある世帯に、年間1万円分の「かしわ★ざ★キッズ！スターチケット」を、10月15日から簡易書留で郵送します。

これまで、市民アンケートや議会の方々から、経済的支援やインフルエンザの予防接種に対する補助などの子育て施策の要望がありました。行政として支援しきれないところでしたが、今回、インフルエンザや他の予防接種、おむつの購入などにも使えるチケットを考えました。チケットを利用できる事業者には、スターチケット登録事業者のステッカーなどを掲示して、皆さんに周知したいと考えています。

(2) 市勢要覧をリニューアルー進取の気性に富むまち・柏崎を発信

（主管：元気発信課）

従来は4年に一度の制作でしたが、今回から2年に一度に変更しました。これは、予期し得ないことが起こるスピード感のある時代の中で、今現在に近い柏崎市の状況をお知らせすることが重要であると考えたためです。

他の変更点として、ページ数を48ページから20ページにしました。ページ数を半分以下にすることで、コストカットをするとともに、密度の濃い市勢要覧になったと考えています。

また、内容面では、いろいろな領域で躍動する若い方々の特集を組みました。

(3) 市内三名園で柏崎の秋を堪能ー秋の三園さんぽ

（主管：商業観光課、博物館）

これから紅葉の季節になりますので、松雲山荘、秋幸苑、貞観園の3つをセットで堪能していただきたいと思います。加えて、新しい観光ビジョンの考え方にに基づき、お庭だけ

でなく文化や食などを組み合わせることによって、より魅力を深いものにしていただきたいと思います。

松雲山荘の近くにある市立博物館では、熟睡プラ寝たリウムを開催しますので、松雲山荘と併せて楽しんでいただきたいと思います。

(4) 「市民のアルバム－柏崎ふるさと人物 WEB 館」をオープン－市民の皆さんから「私の生涯」を募集スタート

(主管：博物館)

ふるさと人物館は、柏崎の歴代の町長や文化人などを紹介していましたが、建物の老朽化などにより閉館しました。それをあらためて WEB 上にオープンします。加えて今回は、一般市民の方々の足取りを伝えていくことも大切ではないかと考え、市民の方々を WEB 上に市民のアルバムとして公開します。

(5) 住民参加の原子力防災訓練を実施

(主管：防災・原子力課)

新潟県の主催で 10 月 20 日と 24 日に原子力防災訓練を行います。20 日は、市の災害対策本部の運営訓練で、24 日は、住民の皆さんから参加していただく訓練です。今年、PAZ 内住民の広域避難訓練、UPZ 内住民の屋内退避訓練、UPZ 内住民の一時移転訓練や安定ヨウ素剤緊急配布訓練を行います。住民参加の広域避難訓練は、新型コロナウイルス感染症対策も行いながら、PAZ 内の地区別に糸魚川市、村上市、湯沢町に避難していただきます。UPZ 内の一時移転訓練は、直江津港南ふ頭緑地公園をスクリーニングポイントとして、避難経路所である糸魚川市の亀が丘体育館を経由して、避難所の道の駅マリンドリーム能生に向かいます。

(6) イノシシ目撃情報マップを公開

(主管：農政課)

先日、柏崎駅の 100 メートル圏内でイノシシが出て、国道 8 号線を通行中の車両との交通事故が発生しました。今年、イノシシの目撃が多く、特に、米山の山麓付近、北条方面、別山方面での目撃情報が多くなっています。年度途中ですが、現時点で昨年 1 年間と同じぐらいの数が目撃されています。狩猟期間に入っていないため捕獲頭数は 85 頭とまだ少ない状況です。

多くの市民の方々からイノシシによる被害報告が届けられていますので、市では、まず子どもたちを中心に地域の方々の安全を守りたいと思っています。そのために、最終的にはイノシシの個体数を減らさなければならないので、罾や猟友会の協力を得ながら、年度途中で、補正予算も頭に置きながらイノシシの個体数の減少を目指して動き始めたいと考えています。

2 質疑応答

◎「かしわ★ざ★キッズ！スターチケット」に関する質問

記者：対象人数はどれくらいで、この後、第二弾や第三弾を考えているか。また、この事業は市が目指す移住定住に繋がっていくものと考えているか。

子ども未来部長：対象人数は0歳から3歳までで、1年間で約2千人から2,100人を見込んでいます。

市長：第二弾、第三弾は今の段階では考えていません。使い勝手を良くしてもらいたいなどの要望が多くなれば、次の段階を考えていかなければならないと思っています。今回は紙のチケットですが、マイナンバーカードの地域通貨として入れられないかという検討も始めています。すぐにはできないと思いますが、より使い勝手がよい設えを考えていきたいと思っています。

これだけをもって移住定住が増えるとは考えていませんが、市民の皆さんからの経済的支援が足りないという声に、一定程度お応えするチケットになるのではないかと期待しています。柏崎市の教育環境は、他の自治体に比べてきめ細かな教育体制を組んでいますので、子育てや教育の魅力を多く発信して、移住定住に結び付けたいと考えています。

記者：今回は0歳から3歳までだが、対象年齢の拡大などは考えているか。

市長：今現在で対象年齢の拡大は考えていません。財政面も考え、同じ子育て施策でも、どこにお金を集中的に使うべきかを考えながら、今後進めていかなければならないと考えています。

記者：10月15日に発表される登録事業者と指定事業者はそれぞれ何事業者くらいになるのか。また、この登録事業者の中には一般のドラッグストアなども含まれるのか。含まれる場合、子育て支援のためのお金が一般の買い物などの政策目的に沿わない使い方をされるかが問題になると思うが、対策などはどのように考えているか。

子ども未来部長：今現在の登録事業者は38者、指定事業者は2者です。登録事業者38者のうち6者が医療機関で指定事業者は2者とも医療機関です。

登録事業者にはドラッグストアなども含まれます。

市長：チケットの用途は、予防接種、キッズマジックやファミリーサポートセンターの利用料、オムツ・ミルクの購入費用などに限定していますので、ドラッグストアなどでの食料品の購入には使えません。

記者：オムツと食料品を一緒にレジに持って行った場合は、現金とチケットを合わせて支払うのか。

市長：そうです。

記者：チケットがオムツ代金にのみ充てられるかはお店の判断になるのか。

市長：はい。

記者：事業費はおよそ2千万円になるのか。

子ども未来部長：事業費は約2,400万円で、そのうちチケットの交付額が2,100万円です。

記者：国や県などから補助金や交付金はあるか。

市長：ありません。

記者：当初予算では調査費ぐらいだったと思うが、このタイミングで補正予算を組んで急遽始めたのはどのような背景があるのか。

市長：年度途中からでも行くと最初から申し上げていましたので、急遽始めたのではなく、ある意味で予定通りです。

記者：予防接種などにも使えるということだが、新型コロナウイルス感染症の影響もあるのか。

市長：今年度予算編成時には、新型コロナウイルス感染症がこれほどのものになるとは想定できませんでしたが、結果として考えざるを得なくなり、今回10月開始にさせていただきました。

◎市勢要覧のリニューアルに関する質問

記者：4年前の市勢要覧に比べるとスリム化して、市の歴史、年表や資料などが割愛されているが、その辺りはそれほど必要ないという考えか。

市長：議論はしましたが、市勢要覧をお配りする対象である市外の方々、市外の企業、他の自治体に、柏崎市はこういうところだという概要を伝えることが大切だと思いましたので、ビジュアルを中心に作り、年表などは省きました。細かいところは、最後に掲載したQRコードから見ていただくことができます。

◎原子力防災訓練に関する質問

記者：市長は24日の住民参加の訓練を視察する予定はあるか。視察する場合はどこを重点的に確認したいと考えているか。

市長：視察します。視察のポイントは、前年に比べて少しでも実効性が高まっているかです。具体的には、今回は新型コロナウイルス感染症対策の要素が加わり、40人に対してバスが2台になりました。実際に感染症蔓延時に原子力災害が起こった場合、バスの台数は従来考えていた数の2倍以上になります。そういったことを頭に置きながら、実際はどのようなようになるか頭の中でシミュレーションしながら視察したいと思っています。また、スクリーニングに関しても、要支援者などの対応も含めて、実際に災害が起こったことを想定して視察したいと思っています。

記者：今回の訓練内容はこれで十分と考えているか。

市長：新潟県は冬期間の避難訓練も行うと聞いていますので、それも併せて今回の訓練を位置付けていくのがいいのではないかと思います。今回の訓練だけですべてが終わりではありませんので、今回の訓練は今回の訓練として評価したいと思っています。

◎東京電力の再稼働に関する質問

記者：東京電力によると、再稼働を進めている7号機に、来春にも核燃料を装填する考えがあるということだが、地元での議論が進まない中でこのような計画を示すことをどう思うか。

市長：東京電力からは正式に伺っていません。それが事実だったとしても、国の規制委員会の審査が通ったので、自分たちはいつでも再稼働に臨める態勢であるということスケジュールとして示していくのは、一般的に然るべきプロセスではないかと思っています。

記者：県の検証や地元の同意に関して、議論が終わるめどが立っていない中で燃料が装填された場合、再稼働に向けて進んでいる印象を受けると思うが、その辺りはどう考えるか。

市長：県の3つの検証は、それぞれ議論も詰まってきたかと思っています。確かに、いつ統括委員会が開催されて議論が始まるのかは承知していませんが、東京電力が国の規制や法律が許す中で準備を重ねていくのは、事業者として必然だと思っています。東京電力が3つの検証が終わる前に再稼働の事前了解を自治体に求めてくることはないだろうと思うので、県の3つの検証が終わり、議論が始まり、一定程度の方向性を知事からも示されたならば、その段階で新潟県、柏崎市、刈羽村に事前了解などを求めてくるのではないかと考えています。

記者：事業者として方向性を決めるのは必然かもしれないが、地元の議論が進まない中で再稼働に向けて計画を進めることに対して、地元の意見を軽視しているように見られることもあると思う。その辺りはどう思うか。

市長：私は地元の意見の軽視とは感じていません。この4年近くで東京電力にかなり厳しい注文や意見も申し上げました。再稼働を巡って、新潟県の3つの検証が済むということは、東京電力がある意味で県との信頼関係を崩さないという強い意思を感じていますので、東京電力がいたずらに市民、刈羽村民、新潟県民の意見や住民感情に反して動いているとは私は捉えていません。

記者：東京電力は燃料装荷のタイミングではなく、臨界に達する前のタイミングで事前了解を求めると言っているが、そのタイミングについて市長はどう考えるか。

市長：タイミングは非常に難しいですが、私は東京電力の考えでいいのではないかと考えています。一方で、他の原子力発電所の事前了解のタイミングも見ておかなければならないと考えています。中越沖地震の際は、臨界に達する前のタイミングで事前了解を求められたはずなので、過去に事前了解を求められたタイミングも考えながら、東京電力や新潟県などが判断するのではないかと考えます。東京電力がいつ事前了解を求めてきたとしても、自分たちの考えはしっかりと持ち合わせていなくてはならないと考えています。

記者：つまり現状の東京電力の考え方を是認するというだけでよいか。

市長：中越沖地震の際にもそのようなタイミングで事前了解を求められたと承知していますので、現実的なリスクが生じる前、つまり臨界に達する前には事前了解は必要だろうと考えています。